



一人の人間における偉大な人間革命は、やがて一国の宿命の
 転換を、さらに全人類の宿命の転換を成し遂げる！

■〈青春〉の生きゆく道を若々しい生命力とともに誓いあった男たち…
 人間の尊厳と美しさを高らかに謳う感動の超大作！

続人間革命

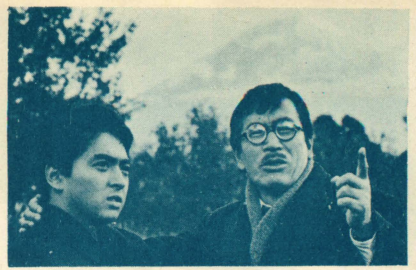
丹波 哲郎
 あおい輝彦
 新珠三千代
 夏 純子
 徳永れい子
 大竹しのぶ
 春川ますみ
 稲葉 義男
 名古屋 章
 中谷 一郎
 青木 義朗
 新 克利
 森次 晃嗣
 長谷川明男
 橋本 功
 岸田 森
 桑山 正一
 小泉 博
 志村 喬
 渡 哲也
 仲代 達矢

原作 ■ 池田大作
 脚本 ■ 橋本 忍
 監督 ■ 舛田利雄
 製作 ■ 田中友幸



企画 ■ “人間革命”製作委員会
 製作 ■ 株式会社シナノ企画・東宝映像株式会社 / 東宝株式会社配給

《カラー作品》パナビジョン



◆かいせつ

一九七三年九月、東京有楽座ロードショー公開で火ぶたをきった映画「人間革命」は、その雄大なスケールと感動の嵐で日本列島を湧かせた。

そして、「これがなされた時、いや、その時にこそ——」

丹波哲郎が演ずる戸田城聖の力強い叫び声を耳に残して、早や三年の歳月が流れた。

「続・人間革命」は池田大作氏のミリオンセラー、大河ロマン小説「人間革命」の第四巻を中心に第二巻から第五巻までを描く。

昭和二十一年、創価学会の再建に励んでいた戸田城聖が、その後デフレの波をかぶり数々の事業に失敗を重ねた。その苦悩の中で学会活動にのみ専念する決意を固め、わずかな会員数を奇蹟的な七十五万世帯にまで発展させる大目標を定め前進を開始する物語である。

その間、原作者のモデルとされる山本伸一青年と戸田城聖との劇的な出会い、師弟愛、二人の絆の強さ、美しさを高らかに謳う。

また、前作でも大活躍した東宝特撮陣は地球の創世期から人類誕生までの大ドラマ、鎌倉時代の天変地異等を再現しスペクタクルの醍醐味をたっぷり描く。また海外二十四ヶ国に美景ロケーションを展開するものこの作品ならではスケールである。

二時間四十分、パナビジョン超大作。

◆ものがたり

初代会長牧口常三郎の三回忌法要と創価学会の第一回総会を行った戸田城聖は牧口の遺影と向い合った時、牧口の声を聞いた。「戸田君、君は将来大成功を遂げるか、それとも大失敗をするか、そのどちらかか人間だな」彼はその声を胸に刻んで学会再建の道を歩む。

雨の夜、戸田は幹部と共に座談会に出席し「立正安国論」を説く。雨も上り、質問会に移る。突然、戸田を切りつけるような鋭い声がかんた。

「先生！自分にとつていけば正しい人生とは、それはいつだっていう人生ではないか？」真剣な表情で、目を大きく見ひらいた青年だ。や、長い睫毛が影をおとし、稚ない眼元は涼しく、かつ憂いを帯びている。戸田は微笑を浮かべ声をかけた。

「君の名前は？」山本伸一です」「いくつになつたね？」「十九歳です」

その時、戸田は四十七歳。十九歳の青年はいくらでもいる。しかし、二十七年前の牧口と当時の戸田とを、まざまざと想い馳らせたのは、今日の一人の青年ではなかったか。この夜、現われた山本伸一が戸田はなぜかいた。

それから十日後、昭和二十二年八月二十四日に山本は入信した。

戸田は学会を支えるべき事業活動、日本正学館の経営にしんぎんしていた。同じく学会活動のあり方にも根本的な疑念を抱いていた。だが会員全体の学術への熱意、積極的な折伏、力強い組織作りにはまだまだ欠けていた。幹部を前に戸田はその事を強く指摘した。

そんな時、ある支部で事件が起きた。入信した妻がやくざの夫に離婚を申し入れた。彼は烈火のごとく怒り短刀をふりまわし座談会にのりこんだ。ピストルを握った仲間を四人も引き連れていた。学会活動に対するおどしである。

泉田支部長は一応その場をおさめ、戸田に報告した。翌日、事件は意外な形で解決した。やくざ達の組長が、かつて深川の工場空地で紙の取引をし、座談会にも顔を出したことからある特攻隊の男、島谷であったからだ。

真夏の富士が聳える大石寺・理境坊での夏季講習会。一昨年とは飛躍的に増加した受講者が集まり、戸田の講義を中心に熱心な勉強が行なわれていた。

その受講者のいばんうしろのほうに山本伸一。じつとまばたきもせず遠くの戸田を見つめている。戸田は、かつて巣鴨・東京拘置所で悟った「仏界」、つまり仏とは自分自身の生命である「仏界」の事を静かに力強く語るのだった。伸一は形容もできない衝撃につつまれた。翌日の講義では最前列に進んだ伸一は真正面から戸田と相対していた。まさに真剣勝負！伸一は、いつしか、そのあまりにも大きな感動に我を忘れた。

戸田は山本伸一を日本正学館に採用した。勤務第一目の伸一を見た戸田は、一人一人の人間が組織の車軸とならねばと、考えた。「冒険少年」は伸一の発案で、「少年日本」と改題、内容も一新され、その編集長には伸一が任命された。

日本正学館の建物には、これまでの「創価学会本部」「日本正学館」の看板に「東光建設信用組合」の新しい看板が加わった。戸田の獅子王のような活動は続いた。そして彼の隣には、常に伸一がいた。

伸一は座談会で「立正安国論」の講義等をしたがら学会員の指導育成に力をそそいだ。七百年前に説かれた日蓮の仏法を現代に展開して会員一人一人の成長と学会の未来を力強く語るのであった。

日本正学館の経営は思わしくなかった。戸田は出版停止を宣言した。社員は全て信用組合で働くことになった。しかし、信用組合の経営も早や難かしくなっていた。戸田はただひとり資金獲得に奔走したが、大口出資者である他の組合幹部は全く知らぬ顔であった。大蔵省の行政指導でも絶望視される経営悪化であった。伸一は戸田の下にただ一筋に妙法を信じていた。

信用組合は営業停止となった。戸田はその責任が創価学会に及ぶのを危惧し学会理事長の職を三島に譲った。この日山本伸一が入信して丁度満三年、伸一は「先生……三島さんが理事長になると、私の師匠は三島さんになるんですよか」「涙が溢れていた。戸田はそれに答えた。「いや、それは違う！苦勞ばかりかけるが、君の師匠はどこまでもこの僕だよ」ここには美しくも厳しい師弟不二の姿があった。

どこでどう聞いたのか、島谷組長が戸田に対し資金援助を申し入れた。戸田はその気持には大いに感謝したが資金の性格上受けるわけにはいかなかった。島谷は戸田の立場を心から理解した。それから数日後、戸田の元へ島谷から電話が掛り、これから修羅の世界へおもむくと伝えられた。戸田と伸一は島谷が暴力団同志の血の抗争に向ったことを知り、現場に駆けつけたが、すでに遅く、島谷は虫の息であった。戸田の胸に、なにかわけの判らない悲しみが広がった……

その夜、戸田は大石寺・御宝蔵の前に正座し唱題を続ける。そして広宣流布の道をただ一筋に実践していくべきであったということ。生命の奥底より知った……御宝蔵の前に倒れ伏していた戸田に声をかけたのは伸一であった。

- キャスト
- 戸田 城聖：丹波 哲郎
- 幾枝：新珠 三千代
- 山本 伸一：山田 慶造
- 橋一：山田 慶造
- 日 蓮：仲代 達矢
- 三島 由造：稲葉 義男
- 山平 忠平：森次 晃嗣
- 小西 武雄：浜田 晃
- 原山 幸一：長谷川 明男
- 清原 かつ：夏 純子
- 泉 田：黒部 進
- 三川 英子：徳永 れい子
- 北川 直作：田島 義彦
- 藤崎 陽一：浜田 寅彦
- 岩森 喜造：加藤 和夫
- 本田洋一郎：内田 稔
- 金 谷：ハツチ 春川 ますみ
- 妻 ユリ子：山田はるみ
- 黒 川：尾藤 いさお
- 栗 川：岸田 森
- 堀部 十郎：富田 仲次郎
- 信 子：大竹しのぶ
- 湯 浅：志村 喬
- 警察の受付：人見 明
- 西山(画家)：常田富士男
- 少年(印刷屋)：頭師佳孝
- 加 藤：中谷 一郎
- 山中 検事：新 橋 本 功
- 内外 検事：新 橋 本 功
- 桑島 検事：青木 義朗
- 島 谷：渡 哲也